

学 位 論 文 の 要 旨

三 重 大 学

所 属	三重大学大学院医学系研究科 乙 生命医科学専攻 病態制御医学講座 腎臓内科学分野	氏 名	松尾 浩司 まつお ひろし
<p>主論文の題名</p> <p>Echocardiographic Assessment of Cardiac Structural and Functional Abnormalities in Patients with End-Stage Renal Disease Receiving Chronic Hemodialysis</p> <p>主論文の要旨</p> <p>血液透析患者では、心・弁膜病変、特に大動脈弁狭窄症の合併頻度が高いとされるが、その有病率や重症度、進行速度や予後との関連を多施設で調査した研究はこれまで行われていない。そこで我々は、血液透析患者における心・弁膜病変について心臓超音波検査を用いて多施設で心エコー図検査を中心とした前向き登録試験（MIE-CARE HD Study）を実施し、その第一次報告として症例登録時における大動脈弁狭窄症の有病率・重症度および臨床的背景や心機能との関連に焦点を当てて提示した。</p> <p>対象・方法</p> <p>MIE-CARE Studyは三重県内の8施設より350例の血液透析患者を登録した。20歳以上、透析歴1年以上、自由意思による参加を登録基準とした。登録症例より35例（登録基準より逸脱：5例、同意撤回：6例、初回検査前に死亡：7例、転院：5例、人工弁置換術後：3例）を除外した315例を解析対象とし、大動脈弁弁口面積（AVA）を体表面積で除したAVA index（AVAI）の3分位値を基に3群に分け、群間比較を行った。</p> <p>結果</p> <p>全症例の平均年齢は67.9歳、男性は47.6%であった。透析歴は中央値76ヶ月、透析導入となった原疾患は糖尿病性腎症が最多で41.0%を占めた。AVAが2.0cm²未満の患者は50.2%を占めた。Group 1（1.51 ≤ AVAI, n=105）、Group 2（1.16 ≤ AVAI < 1.51, n=105）、Group 3（AVAI < 1.16, n=105）の3群間比較では、Group 3は他2群に比してもっとも年齢が高く、虚血性心疾患の既往歴が多かった。原因疾患や合併症には3群間に差は認められなかった。血液検査ではGroup 3において脳性利尿ペプチド（BNP）値が有意に高値であった。血清カルシウム値やリン値、副甲状腺ホルモン（PTH）値に有意差は認めなかった。心エコー図検査では、全症例の88.5%に左心室の形態異常を認め、左室肥大が66.3%、求心性肥大が51.3%、遠心性肥大が15.0%を占めた。全症例の97%で拡張障害パターンまたは心房細動を呈した。AVA < 1.0cm²と高度の大動脈弁狭窄を呈する13症例</p>			

中12例で、大動脈弁平均圧較差は40mmHg未満と低値であった。大動脈弁の石灰化率はGroup3で高かった。重回帰分析では、年齢とPTH値がAVAIの独立関連因子であった。また、AVAI はE/E' の独立関連因子であった。

結語

血液透析患者で高率に心・弁膜病変が認められた。血液透析患者における大動脈弁狭窄症の重症度と、年齢およびPTH値との関連性が示唆された。